

<p>書名 『17音の青春 2016 五七五で綴る高校生のメッセージ』</p>	<p>著者 神奈川県立総合教育センター 編 出版年 2016年 出版社 角川書店</p>
<p>中学校では、3年生の国語で俳句についての調べ、自作の俳句を作る授業があります。そこで、学校図書館では教科書の中に出てくる俳句の意味がわかる本や、自分が俳句を作る時に必要な本を準備します。そして見つけたのが、この『17音の青春 2016 五七五で綴る高校生のメッセージ』という本でした。</p> <p>神奈川県立総合教育センターが全国の高校生に向けて俳句を募集し、それを金子兜太^{とつた}などそうそうたるメンバーが選び、評を書いています。</p> <p>最優秀賞受賞作品 高校2年 高橋洋平さんの 被爆者として黙祷す原爆忌 / フクシマに柿干す祖母をまた黙認 や、高校3年 日下部太亮さんの 向日葵や風に炎の匂ひあり / 向日葵を撮る向日葵に囲まれて などの訴える力や情景を鮮明に映し出す力のある秀句だけでなく、入選作品の中には、 高校2年 柳元佑太さんの 冷奴しづかに死んでゆく言葉 / 歯ブラシと短髪少女夏の果 のような、本人にしか正確なところはわかり得ない、独特の世界を描いた句もあります。</p> <p>しかしいずれも、新時代に向かって、若い感性が確実に成長し、進化している様子が感じられて、たのもしい思いがします。</p>	